

## Focus on!

## 国際交流ステーション

市町村や市町国際交流協会、NGO/NPOなどの活動紹介や最新ニュースをお届けするコーナーです。

## 西尾市国際交流協会

西尾市国際交流協会（NIA）は西尾市民の多文化共生、国際交流を推進するための活動をしています。

現在、当協会では、3つの日本語教室、英会話教室、多文化共生部の5つの部会が活動しています。日本語教室は、一昨年から昨年にかけて新型コロナウイルス感染症拡大の影響で学習者がかなり減少しました。現在は、学習者も徐々に増えてきましたが、コロナ禍以前は、1クラス100人を超える学習者がいたことを思うと、元通りになるにはまだまだ時間がかかりそうです。早く新型コロナウイルス感染症が収束し、以前のような活気ある教室に戻ることを願っています。また、昨年新設した多文化共生部では、国籍や民族を問わず共に生きていくことを目指すため、様々な国籍の参加者と共に近隣への日帰りツアー、市内外国レストランの取材、習字や落語の日本文化体験等のイベント活動をしています。

今後の目標は、西尾市国際交流協会の認知度を高めることと、来年度に開催予定の30周年イベントを成功させることです。2020年度の市の調査では、市内在住の外国人の当協会への認知度は58%でした。しかし、市内在住の日本人の認知度は28%しかありませんでした。日本人のボランティアスタッフやイベント参加者を募集していますので、外国人への当協会活動周知だけでなく、日本人への周知にも力を入れて取り組んでいきます。日本人に外国人について知ってもらう、興味をもってもらうことが西尾市の多文化共生、国際交流をより推進していくことにつながります。

（最新情報は、公式ウェブサイトやFacebookで確認できます。）



▲日本語教室の様子



▲書道イベントの様子



ウェブサイト



Facebook

## Focus on!

## 世界の街かどレポート

世界各地で活躍する方々に現地の活動や交流の様子をレポートしていただくコーナーです。

## ケニアの車の窓から ナイロビ日本人学校 青山 高視

ケニアに来ていちばん驚いたのは、信号がないことだった。首都ナイロビは慢性的な渋滞に見舞われている。横断歩道もない。交差点を行き交う車の間を平然と人々が歩いている。

初めは、大渋滞の交差点で、信号もなく、どうやったら右折できるのかが不思議だった。答えは簡単なことで、割り込めばいい。そんなことをしたら、対向車とぶつかって…しまわないのが不思議だ。うまく割り込ませてくれる。怒りのクラクションも、お礼のハザードもない。当然のことのように割り込み合う。

ケニアとはそういう社会なのだ。お互いがちょっとずつ迷惑をかけていい社会。

日本はどちらかというと、お互いに迷惑をかけない社会。ちょっとでも迷惑をかけたら申し訳ない気持ちになるし、迷惑をかけられることにもあまり慣れていない。日本人は信号を作り、ルールを守って、気持ちよく生活している。

それが当たり前だと思っていたから、最初はちょっと度肝を抜かれたけれど、慣れてみるとこういう社会も悪くない。迷惑をかけ合ってこそ助け合いがある。

さて、最近、ナイロビの道路がにぎやかになってきた。道路脇には巨大な看板が乱立し、大統領候補たちが笑みを浮かべている。選挙キャンペーンのド派手なバスが、爆音を鳴らしながらスクールバスの横を通っていく。その後を100台以上のバイクが連なって走行する。まるで『北斗の拳』に出てくる悪党たちのようだが（本当は政党）、子供たちは楽しそうに眺めている。

5年ぶりのケニアの大統領選挙。かつての選挙では、結果を不服として暴動が発生し、深刻な民族対立を引き起こした。死者は1,000人を超え、30万人以上の避難民が出た。

今回は平和的な選挙と言われているが、何が起きるかわからない。どうか選挙くらいは、厳正なルールの下で進行してほしい。



▲渋滞の間を縫うように歩く人々



▲爆音をあげるド派手な選挙カー



▲大統領候補の巨大な看板